

### 3 オーウェン・ロー・オニールの死に寄せて

(1649年11月10日、ウオーターフォード県、オーモンドの野営にて、話し手は、オーウェン・オニール一族の退役軍人と、オニールの訃報を持って到着した一人の騎兵隊)

#### I.

「なんだと　なんだと　敵がオーウェン・ロー・オニールを殺しただと」  
「はい　奴らは正面切つての戦いを恐れ　頭領に毒を盛ったのです」  
「神よ　卑怯者らの心臓を干上がらせ　その血の流れを止めたまえ  
オーウェンに毒を盛った奴らに　生き地獄を味わせたまえ

#### II.

聞けば胸張ける話となろうが　報告せよ」5  
「デリーを発ち　クロムウェルと剣を交えんと進軍していた時のことです  
その進軍の最中　よもやサクソン人の手にかかり  
頭領は聖レオナルの日にクロフオーターで息絶えたのです」

#### III.

「嘆き悲しめ　剛腕の者のため　嘆き悲しめ　帰らぬ者のため  
炉の火を消し　息を潜め　死者の頭に灰を撒け10  
皆が彼を慕っていたのだ　二度と会えぬと考えるだけで  
主よ　こんなにも深い嘆きに襲われるとは

#### IV.

合議の場では賢くあり　屋敷では情けあり  
そのオーウェンが我らだけでは勝てぬ戦いを　勝利に導いてくれた  
生きていれば　生きていれば　祖国は自由を得たろう15  
オーウェン亡き今となつては　この先も我らは奴隷のまま

#### V.

オファーレル　クランリカルド　プレストンにレッド・ヒュー  
オードリーにマクマホン　お前たちは確かに勇敢で賢く忠実だ

だが逝ってしまった頭領とは比べものにならぬ  
頭領が我らの軍の舵を取り 我らの城の礎石<sup>いしずえ</sup>だった 20

VI.

嘆き悲しめ 国中で彼の死を嘆くのだ 我らの誇りであった頭領を思い涙を流せ  
偉大なる頭領の最期がせめて戦場であったなら  
ベンバークの勝利者のため 老いも若きも涙を流せ  
嘆き悲しめ女たちよ 美の化身が冷たく横たわっているのだから

VII.

お前は不死身だと思っていた お前が逝くことはない<sup>かんじんかなめ</sup>と 25  
クロムウエルの残忍な攻撃に対し 肝心<sup>かんじんかなめ</sup>の時に逝ってしまうとは  
大雪が空を埋め尽くす時の 羊飼いのない羊も同然  
ああ なぜ我らを置いて逝ってしまったのだ オーウェン なぜ死んだのだ

VIII.

お前の声は女のように優しくとも オーウェン その眼は光輝いていた  
ああ なぜ我らを置いて逝ってしまったのだ オーウェン なぜ死んだのだ 30  
お前の苦悩は終わった お前は高みで神とともに安らげるだろう  
だが我らは未だ奴隷のまま しかも今や父無<sup>てて</sup>し子だ オーウェン なぜ死んだのだ」

(三木菜緒美訳)